

## 2015 年 緩和ケアチーム業務活動報告

緩和ケア認定看護師 磯貝英利子  
 緩和ケアチーム 渋谷均

### はじめに

緩和ケアチームは、26 名の多職種で構成され、チーム一丸となり院内の緩和ケアの啓蒙活動や質の高いケアの提供・継続に取り組んでいる。

今年度の活動を振り返りつつ、次年度に向け更に活動の幅が広がるよう、努力を重ねていきたい。

### 2015 年度の活動状況

#### 1. 緩和ケアチーム介入の記録

1) 診療科別依頼患者数 (のべ人数) と転帰、介入期間  
 依頼患者総数は 39 名。その内訳は外科 12 名、呼吸器科 6 名、消化器科 14 名、精神科 1 名、泌尿器 4 名、耳鼻科 2 名であった。依頼患者数は前年度比 1.8 と増加し、これは緩和ケアチームの活動が院内に根付いてきた結果と考える。

介入期間は 1~94 日、平均 23 日であった。また介入後の転帰は死亡 16 名、退院 9 名、ホスピスへの転院 13 名、継続介入 1 名となっている。

#### 2) 依頼理由

疼痛管理、食欲不振、精神的ケアや在宅支援が主な依頼理由であったが、それに加え、今年度は家族ケア、鎮静、リンパ浮腫などに対する介入が目立つなど多種多様であった。

#### 3) 介入の実際

当院は緩和ケア病棟がないことから、緩和ケアチームが対応しているが、介入半ばで転院をせざるを得ないケースもある。いつでもどんな時でも私達、緩和ケアチームが側にいることを伝えていくこと。また日々のケアを丁寧に行い、対象にとって適切な緩和ケアを提供していくことを継続していきたい。

昨年度は 39 名の患者にかかわったが、それぞれの患者さんに多くの思い出がある。その中でも笑顔が素敵な A さんのエピソードを紹介したい。

症例：67 歳 男性

病名：食道がん

経過：主治医より疼痛コントロールの依頼があり介入を開始した。オピオイドローテーションにより疼痛コントロールが良好となり、笑顔を見せるようになったある日「飼っているネコ会いたい」と話された。その後、主治医や病棟スタッフと連携をとり、ネコに会える環境を提供した。A さんも家族も笑顔が絶えず、穏やかな時間を過ごすことができた。

人はどのような時期においても希望を持ち続けると言われている。A さんの場合は飼い猫に会うことが唯一の希望であった。個人によって希望は違い、その時の患者さんの病状により、また物理的に希望を叶えられないこともある。しかし、緩和ケアチームが介入することで希望を引きだし、それを「支え、受け止める」ことが大切であると考えられる。

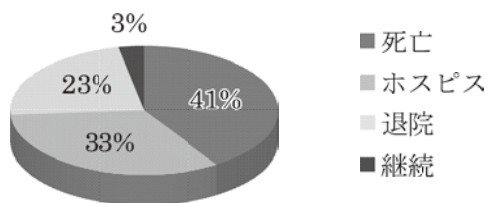
#### 2. 緩和ケア外来

1) 診療科別依頼患者数は 5 名で外科 2 名、呼吸器科 1 名、消化器科 1 名、泌尿器 1 名であった。同一患者が複数回通院するケースが多かった。

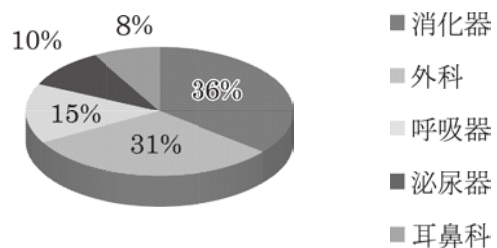
#### 2) 依頼理由

精神的ケア、食欲不振や在宅支援が主な依頼理由であった。なかでも精神的ケアの依頼が多く、病状の変化に伴う不安が多く寄せられた。

依頼件数が増えなかったのは、アナウンス不足と主病科以外に通院することが負担になっているのではないかと



介入後の転帰



科別依頼数

と考察できる。今後は入院時だけでなく外来でも緩和ケアが受けられることを伝えていきたい。

### 3. 勉強会・研修会・講演

#### 1) 緩和ケア勉強会

##### (1) 平成 27 年 3 月 3 日

##### 「リンパ浮腫勉強会」

緩和ケア認定看護師 磯貝 英利子

がん患者においてのリンパ浮腫は、手術や放射線治療が起因となり出現することが多い。一度発症すると治癒しにくく、ボディイメージの変化や日常生活に支障をきたす等 QOL 低下につながる一因であるとも言われている。治療を円滑に行うためには解剖生理や禁忌事項を踏まえ、複合的理学療法を積極的に取り入れること。毎日のセルフケアも必要であり、自己効力感を維持できるようにサポートしていくことも大切である。

また雑誌やインターネット等ではリンパ浮腫に関して、あらゆる方略が提案されているが「美容」と「医療」は違うことを留意し対応していく必要がある。

##### (2) 平成 27 年 5 月 19 日

##### 「せん妄について」

緩和ケアチーム 精神科 古高 陽一  
市立室蘭総合病院 精神科  
北村 一紘 小原 絵夢 三宅 高文 三上 敦大

せん妄は一過性の急性精神症状群であり、終末期がん患者の 30～40% に合併し、死亡直前においては、患者の 90% がせん妄状態であるとも言われている。緩和ケア領域のみならず、様々な診療科での日常診療でも非常に良く目にする症状群でありながら、発症から精神科受診にいたるまでの初期対応は意外と知られておらず、病棟管理に苦慮しているケースも多い。今回せん妄について話す機会を得たため、当院常勤の精神科医 5 名を対象にせん妄の初期対応について調査を行った。

身体的に特に制約のない場合、糖尿病合併例、腎機能障害合併例、肝機能障害合併例について調査を行った所、状況に応じて初期用量は異なったが、全ての場合で trazodone を第一選択とする者が多かった。必要時指示についての調査では、不眠時薬は主剤と同薬剤を選択し、使用した量を翌日の就寝薬に上乘せるとの意見が多かった。不眠時薬についてはほぼ全員が risperidone、haloperidol を選択しており、理由として液剤や注射剤が存在する事、精神科以外の病棟でも比較的使い慣れている事が挙げられた。薬剤以外の病棟への指示としては日

中の覚醒を促す事、せん妄状態の様子を具体的に看護記録に記載してもらう事が挙げられた。また、不眠時薬の使用や身体拘束を躊躇してしまうケースも少なくなく、適切に不眠時薬を使用する事、必要であれば身体拘束をしっかりと行う事も大切であるとの意見があった。

せん妄についての正しい知識を啓蒙する事で終末期患者の大切な時間が少しでも有意義なものになる事を望む。

最後に、当発表での薬剤選定において利益相反はない事を明言する。

##### (3) 平成 27 年 9 月 2 日

##### 「知ってほしい痛みの話」(疼痛スケール編)

緩和ケア認定看護師 磯貝 英利子

多職種チームで対象の痛みを理解するためには、「疼痛スケール」という簡便で共有可能な指標が必要である。そこで院内疼痛スケールを「NRS」「フェイススケール」の二つに限定し、情報共有の強化を図っていきたい。

疼痛スケールの数字だけを聴取するのではなく、疼痛部位や程度、困っていることなど、全人的な痛みのアセスメントを行うことも重要である。

目の前にある症状を的確にアセスメントし対応することが、症状の早期緩和や信頼関係の構築につながっていくと考える。

#### 2) 研修会

##### (1) 平成 27 年 1 月 23 日

西胆振緩和ケアネットワーク第 33 回例会

市立室蘭総合病院 講堂

##### \* ミニレクチャー

「せん妄の初期対応」

緩和ケアチーム 精神科 古高 陽一

##### \* 症例検討

「終末期患者の看護を振り返る～外泊への支援を通して～」

6 階西病棟 洲崎 郁子

##### (2) 平成 27 年 3 月 3 日

主催) ㈱テルモ

「アセリオ静注液 1000 mg 説明会」

##### (3) 平成 27 年 7 月 2 日

主催) ㈱塩野義製薬

シオノギ Web カンファレンス「がん疼痛緩和の実践的アプローチ」

帝京大学医学部 緩和医療学講座

緩和ケア内科 教授・診療科長 有賀 悦子先生

##### (4) 平成 27 年 8 月 26 日

「リンパ浮腫」について

ナック商会 能登谷 孝章 氏

- (5) 平成 27 年 9 月 11 日 新人研修  
「エンゼルケア」  
緩和ケア認定看護師 磯貝 英利子
- (6) 平成 27 年 10 月 7 日 主催) (株)大鵬薬品工業  
How to がん疼痛 web Lecture  
「がん疼痛治療のスキルアップ レスキュー薬使  
いの達人になる！」  
埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 科長  
余宮 きのみ先生

### 3) 講演

- (1) 渋谷 均：終末期患者の在宅緩和ケアにおける問  
題点  
「市立室蘭総合病院緩和ケアセミナー」  
平成 27 年 11 月 6 日 室蘭
- (2) 磯貝 英利子：緩和ケアについて 第 6 回ひまわ  
りサロン  
「市民公開講座」 平成 27 年 6 月 30 日 室蘭
- (3) 足達 芳恵：緩和ケアとくすり 第 6 回ひまわり  
サロン  
「市民公開講座」 平成 27 年 6 月 30 日 室蘭
- (4) 奥谷 浩一：胆振振興局主催「がん対策シンポジ  
ウム」  
平成 27 年 8 月 29 日 リレーフォーライフ in 室蘭

## 4. 第 6 回 ひまわりサロン

平成 27 年 6 月 30 日

「希望」をテーマに開催し、院内外より 100 名余りの来

場者でにぎわいをみせた。緩和ケアを学ぶ場として継続  
を希望する声も多々あり、次年度も魅力あるプログラム  
を検討し継続していきたいと考える。

## 5. 2015リレーフォーライフin室蘭

平成 27 年 8 月 29 日～30 日

募金をつのり、また実際に、たすきリレーを行うなど、  
2 日間にわたり多くの有志に参加して頂いた。多忙な中、  
院内外より様々な形での参加して頂いた有志に感謝申し  
上げます。また道内では室蘭のみの開催であり、当院も  
重要な使命を担っているといえる。

## 6. 第 6 回緩和ケア研修会 ～PEACE PROJECT

平成 27 年 10 月 2 日～3 日

今年度より、モジュールの一部改定があったが、院内  
外より多くの協力を得、無事に研修を終えることができ  
た。当院独自のプログラム構成にするなど参加者にとっ  
て、よき学びとなるよう工夫されている。まだ参加され  
ていない方は積極的な参加をお勧めしたい。

今年度は 23 名の参加。内訳は医師名 10 名、看護師 9  
名、薬剤師 1 名、作業療法士 1 名、理学療法士 1 名、MSW  
1 名。このうち他施設からの参加は 7 名であった。

プログラムとファシリテーターは表 1 に記す。

## 7. ひまわりの会

会が発足し 2 年が過ぎた。緩和ケアチームメンバーは  
もちろんのこと、院内の各認定看護師にも協力して頂き、  
充実したプログラムを提供している。

表 1 第 6 回緩和ケア研修会概要

内 容	講 師
研修開催にあたって	市立室蘭総合病院 病院長 渋谷 均
アイス・ブレイキング	北海道大学病院腫瘍センター 講師 田巻 知宏
がん疼痛の評価と治療	札幌南青洲病院 緩和ケア科 医師 岩波 悦勝
消化器症状	市立室蘭総合病 消化器内科 医長 永縄由美子
コミュニケーション	市立室蘭総合病院精神科 科長 三上 敦大
呼吸困難	札幌医科大学付属病院 呼吸器アレルギー内科学講座 医師 小林 智史
輸液と栄養	北海道大学病院腫瘍センター 講師 田巻 知宏
事例検討・地域連携と治 療・療養の場	洞爺温泉病院緩和ケア科 ホスピス長 岡本 拓也 市立室蘭総合病院 消化器内科 医局長 金戸 宏行
精神症状	市立室蘭総合病院精神科 科長 三上 敦大
オピオイドを開始するとき	函館五稜郭病院消化器内科 診療部長 矢和田 敦

表2 平成27年「ひまわりの会」

月	題	講 師
1	がん治療のチーム医療について	病院長 渋谷 均
2	リンパ浮腫のケアと予防	緩和ケア認定看護師 磯貝英利子
3	抗がん剤治療と鎮痛薬 どっちが先なの？	薬剤師 足達 芳恵
4	食欲不振時の食事の工夫	管理栄養士 関川 由美
5	がんとお金	MSW 佐久間史好
6	がん患者さんの日常生活の過ごし方	がん化学療法認定看護師 対馬 理佳
7	スキンケア～皮膚にやさしい洗い方・効果的な保湿の方法～	皮膚排泄ケア認定看護師 西谷 美香
8	がん治療中の廃用症候群に対する リハビリ	理学療法士 鈴木ももこ
9	がんと在宅療養 ～訪問看護でお手伝いできること～	訪問看護室 保健師 下風 真衣
10	がんになっても私らしく過ごそう ～ウィッグ・ネイル体験～	アデランス 菊池由里子
11	冬に流行する感染症	感染管理認定看護師 荒木 大輔
12	不安とストレス	精神科 医師 古高 陽一

また、語らいの場では参加者同士がアドバイスをし合うなど、仲間意識が芽生え、会の意義が発揮されてきたと考える。

当病院患者のみならず、他院の患者が多く出席しているのもこの会の特徴と思われる。今後も安心できる語らいの場を提供していきたい。

プログラムと講師は表2に記す。

## 8. 学会発表

- 鈴木笑子：がん看護専門看護師による地域ネットワーク活動の現状と課題  
第20回日本緩和医療学会学術大会（2015年6月18-19日 横浜）
- 鈴木笑子，磯貝英利子，滝口 緑，足達芳恵，関川由美，池田和晃，伊藤知子，永縄由美子，吉川 匠，三上敦大，渋谷 均：1 総合病院における医療者が緩和ケア委員会へ期待する内容の分析。  
第20回日本緩和医療学会学術大会（2015年6月18-19日 横浜）
- 鈴木笑子：緩和ケアにおけるリンクナースの活動・課題に関する文献検索。  
第20回日本緩和医療学会学術大会（2015年6月18-19日 横浜）
- 永縄由美子，渋谷 均，金戸宏行，三上敦大，吉川匠，磯貝英利子，伊藤知子，鈴木笑子，吉嶋邦晃，足達芳恵：疼痛治療に対する当院でのトラマドール塩酸塩使用状況についての考察。第20回日本緩和医療学会



緩和ケアチームメンバー

- 学術大会（2015年6月18-19日 横浜）
- 渋谷 均，金戸宏行，三上敦大，伊藤知子，磯貝英利子，池田和晃，伊東あかね，永縄由美子，関川由美，足達芳恵，滝口 緑：当院における今後の緩和ケア研修会のありかたについて～過去5年間の受講生アンケート調査から～。  
第20回日本緩和医療学会学術大会（2015年6月18-19日 横浜）
- 足達芳恵，伊藤愛美，磯貝英利子，佐藤容美，加藤晴久，上田 薫，佐賀亮介，小玉賢太郎，三上敦大，渋谷 均：アファチニブ投与症例に対する早期緩和ケア介入の1症例。  
第9回日本緩和医療薬学会年会（2015年10月2-4日 横浜）